

願が

本文67P

隣室の巨乳美女が
激しいセックスを求めてきた

巨乳

SEX
事件

これは
本当にあった



これは実際にあつた出来事である



ええっ…
これは……

バスタオルに
包まれた困った顔の
巨乳美少女を
見た時

まるで現実じゃないかの
ような感覚に陥った

もしかして俺は
寝ぼけてるのか？

まるで
夢と幻

こんな状況
……

AVでしか
見たことないぞ

あのお…

夜分遅くに
申し訳ないのですが……

私の洗濯機
おかしくなっちゃって
ちよつと見て
もらえないかしら？

洗濯機？
なんか変な
理由だな



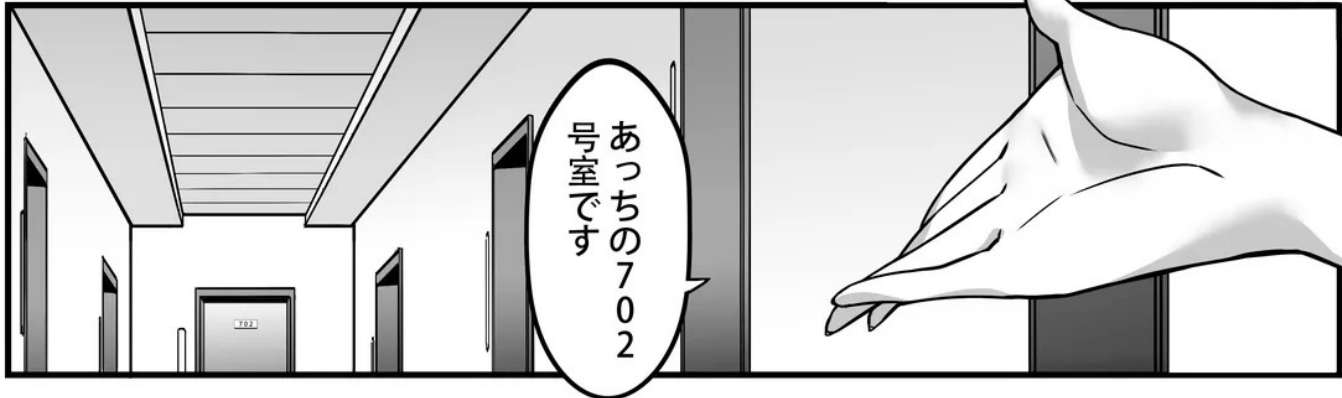
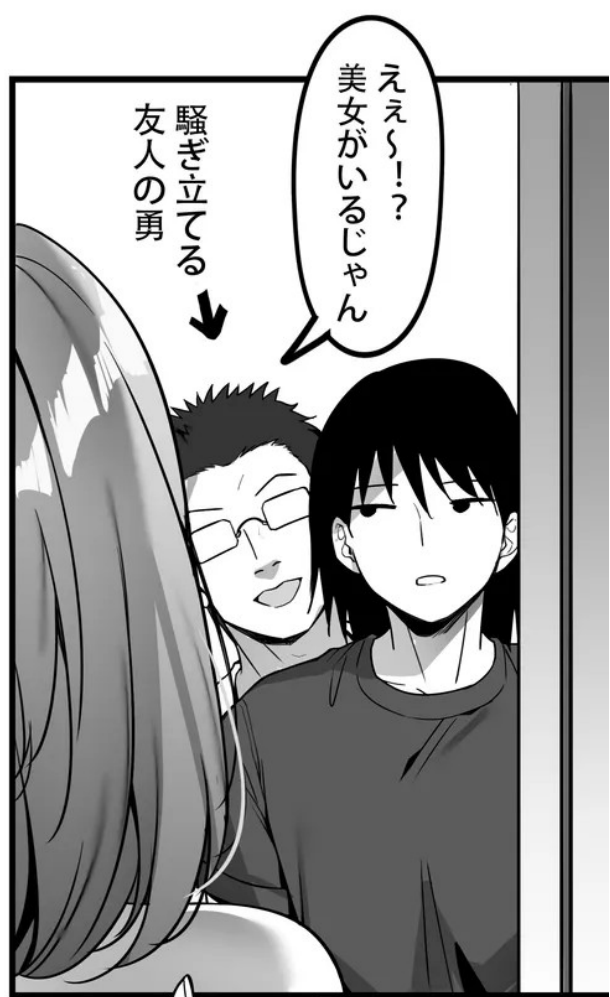
ええ〜!?
美女がいるじゃん

騒ぎ立ててる
友人の勇

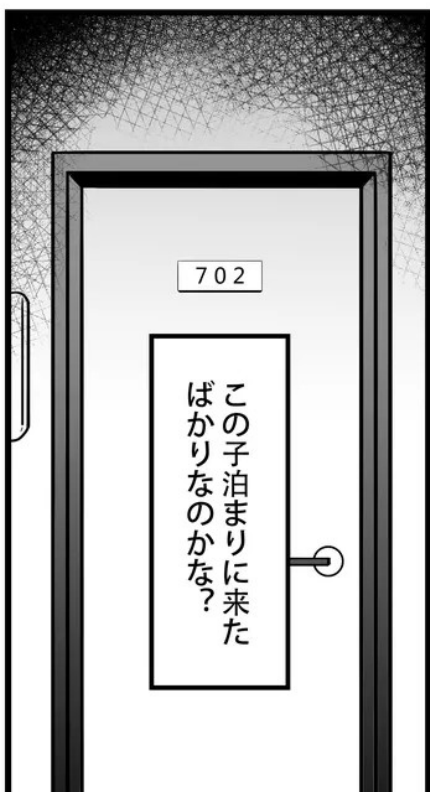
そういえば、お前確か
家電に詳しいよな?

ちよっとこの子の
洗濯機見てやってよ

おお、それでその
洗濯機はどこ?



あつちの702
号室です



この子泊まりに来た
ばかりなのかな?



突きあたりの
702号室

確かあの部屋
民宿やってるよな

よくいろんな人が
出たり入ったりしている



大丈夫！
俺が見てあげるよ



私、こちらの方に
見ていただきたくて

5555555555か？



本当にありがとうございます

でも…
すみません…



ええっ!?!

天性の人見知りの俺にとってはハードルが高いけど…

こんな巨乳美少女が俺を誘ってるんだ行かなければ…

行ってみると

俺は今までにない奇妙な体験をすることになった

思いも寄らず

ひとまず行ってみるか

後ろから友人の勇が厳しそうな顔で俺を見ている

口を動かして何か伝えようとしてるようだ

だが、俺にはその意味がまったく分からない…





ガ
ヤ

702

お手数おかけ
します

どうぞ入って

サッ

うわっ、やばっ！

やわらかい！

すみません！

この子は全く
気にしていない様子だ

もしかしてわざと
俺に当ててきた
のか…！？

で、でも…

もし直せなかったら
ごめんなさいね

ぼんやりと暗い
部屋の中に

かすかな光と
濃厚な香水の匂いが
俺をうっとり
させる……

洗濯機は
あちらです

中には下着が
入っている……

洗濯機どこが
おかしいん
だろう

フワフワそうな
ベッドと、柔らかい
巨乳に囲まれて
おかしくなりそうだ

曖昧な雰囲気……

なんでだろう……
どうしても

申し訳ないのですが

俺にはどこに
問題があるのか
分からないです……

洗濯機が
起動しないの

ちよつと待って
もしかして……

ああ！
やっぱり！

蛇口を開けるの
忘れてたみたいです

ハッ！

だからさっき
……



あー

あー

これは突然

私に降りかかった



リアルな事件である



面識もないこの
巨乳美少女が

突然裸になって
俺の前に現れた

俺の頭の中は
真っ白に…

彼女の目から
緊張感、羞恥心、期待感
が垣間見えた時

俺はやっと現実に
戻ることができた

だが、この状況に
どう対応すれば
いいんだ…

あの…

洗濯機もう
使えらと
思いますので

あの、もし他に
用事がなければ…

じゃあ、そろそろ
失礼します

ハッ
ッ



さっきじっくり
見たはずなのに



それとは比べもの
にならない
激震が走る!



やり慣れては
いなさそうだな



彼女とっても
恥ずかしそうだ

でも…

?

この子はなんで
俺を誘惑したんだ？

ただ単に飢えて
いただけなのか？

わお
すごすぎる

毛ミ

あのう…

もう少し力
入れてくれない？

わっ、
分かった！

モミ

うん…
もっと強く…

モミ

いい感じ！

うんっ…
もっと強く！

んあっ！

んあっ…

モミ

モミ

んあっ！





魅惑的な
陰部！

こんなにも
強引にくるとは
……

でも……

これどうせ
色仕掛けだろ？



理性に勝って
拒まなければ

だが……

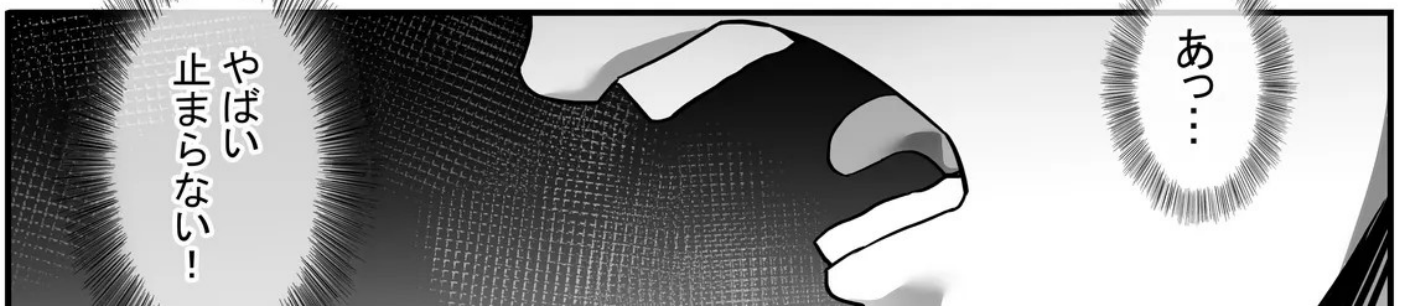
身体が勝手に
動き出しそう……



おっ
おっ
おっ



おっ
おっ
おっ



あっ……

やばい
止まらない！

くそっ！

雑念に構って
られるか！

0
ヤ
ー

あっ

0
ヤ
ー

閉じこもっている
イチモツを

俺の頭を
思考停止させ

解放する
しかない



チンチンだあ
太くて硬くて
興奮する！



早くこの大きな
チンチン差し込んで！

うう！

マジで
積極的だな！



急に
下ネタ
話し始めた



こりや慣れ
ているな





あっ！

お兄さんのチンチン
力強い

大興奮だ！

きつく挟んでる！

んあっ！



力強く
私を犯して！

いやんっ！

だとしても
超楽しいぜ！

彼女はきっと
演じているの
だろうけど

あっ

あっ

あっ

あっ

身体の動きが
勝手に
加速する！

俺もこんなに
飢えていたのか？

焦りすぎると
すぐにイってしまう



あっ！

分かったぞ！

彼女

特有の
この感じ

この顔
この表情
このうめき声
がミックスして

俺の心を
騒ぎ立て

肉棒だって
異常に興奮
している！



脳内が
下心で満たされて
いく...

んあっ

んあっ

犯すぞ！

容赦なく
やってくる！



んあっ

お兄さんすごい！
とっても
気持ちいい！

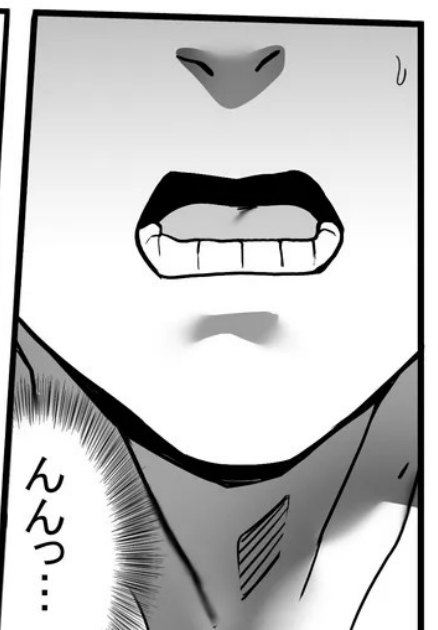
んっ...

んあっ

んん！



この体位
ダメだ！



んんっ...



あーっ!

0

よし
これだ!

0

あっ!

チンチンとらに
大きくなってる!

0 14

0 14

0 24

0

0

0

0

0



お兄さんのチンチン

子宮に達した

やっぱりこれが
好きみたいだな!

すっ
すっ...!

ホントに不思議だ!
こんなに
気持ちいいなんて!

もう
最高!

んっ!
っ!
っ!

アソコの状態も
最高潮!
もっと彼女を
楽しませてやる!

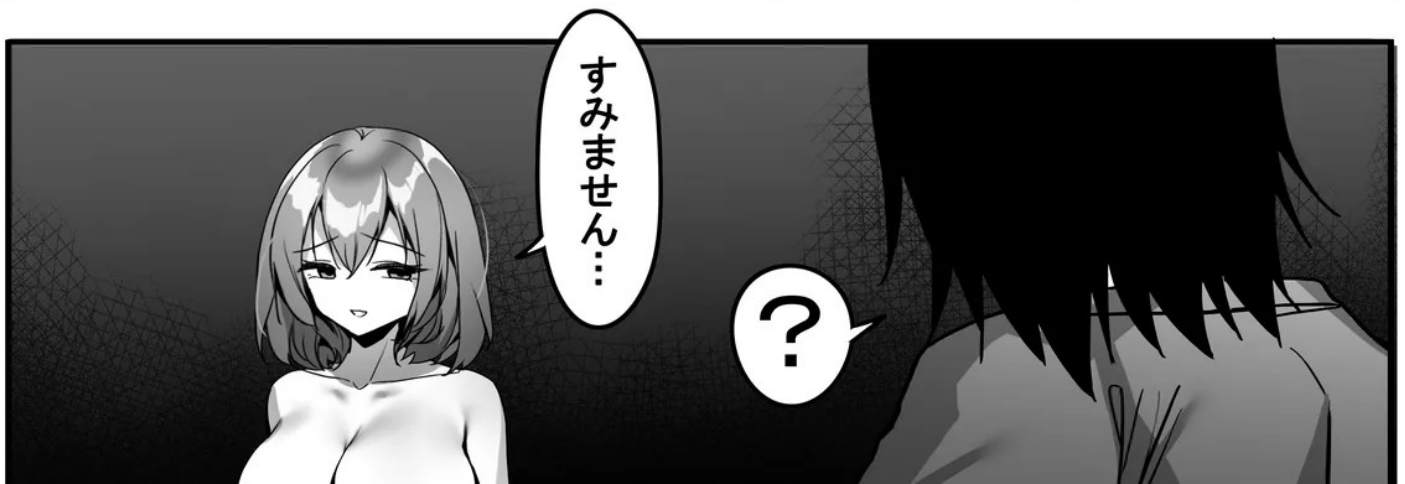
お兄さんのチンチン
の虜になっちゃった!

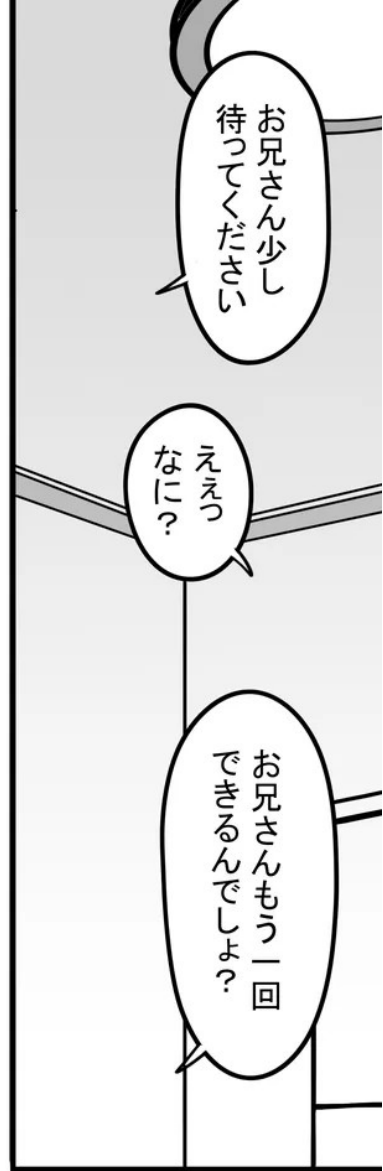
んあっ...
ヤバイ!

も、もう
耐えられない!









もう一回

やりましょ

うっ、
これは……

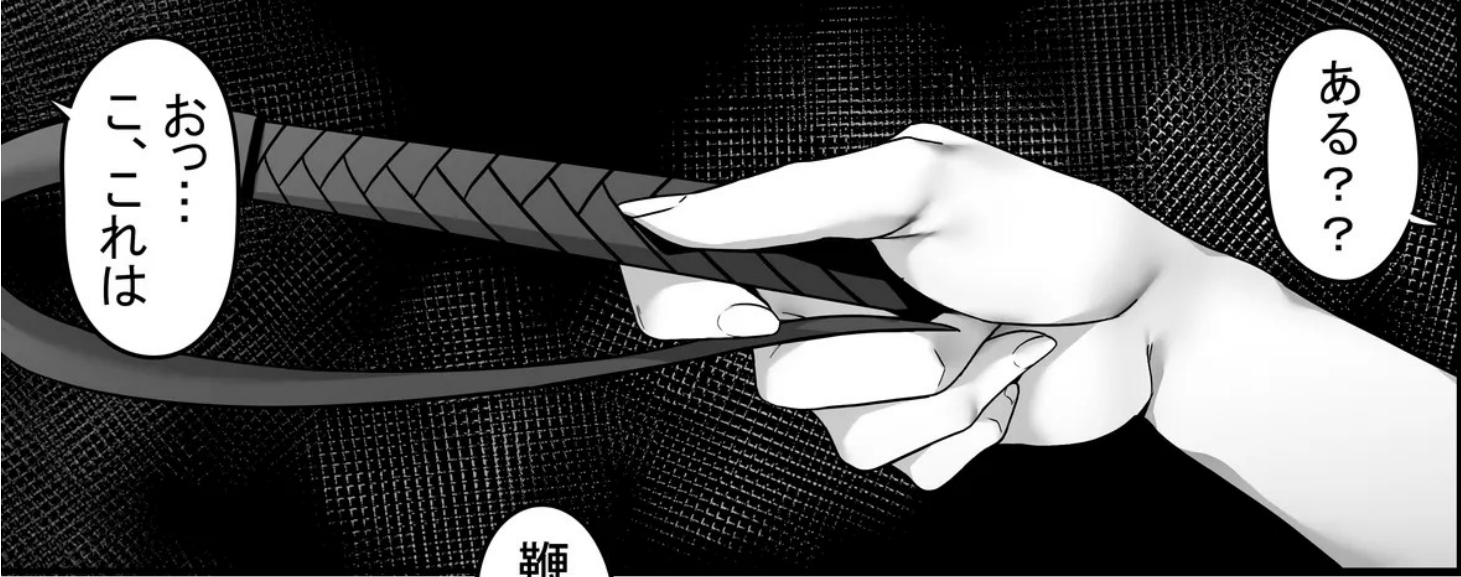
セクシーすぎ
だろ……!!

お兄さんのおチンチン
も準備できましたか?

うん
おれは問題ないぜ

なるほど、これに
着替えていたのか

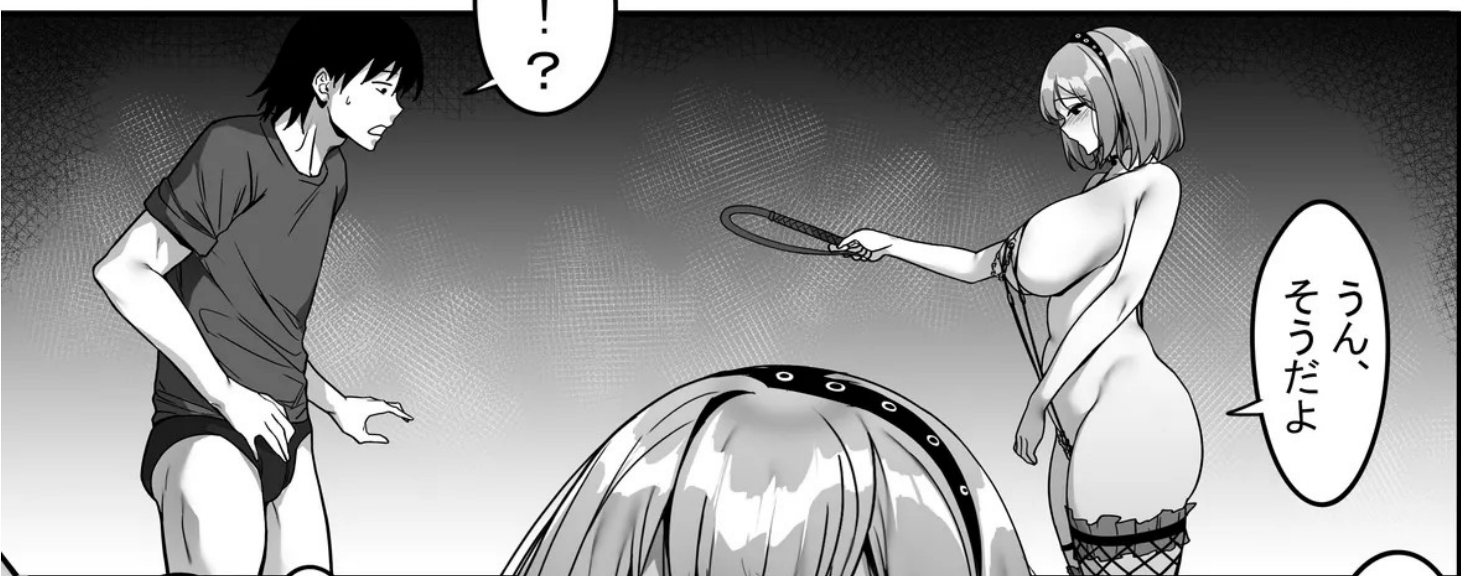




ある???

おっ…
こ、これは

鞭!?



うん、
そうだよ



うん…

これで私を
こらしめて



まさか
それで…

俺に殴って
欲しいと?

でも……

俺も多少SM
グッズの
使い方知っては
いるけど

実際に使うとなると
どうしていいか

この鞭何か特別な
使い方あるの？

実際
俺はかなりの
正統派だぞ

大丈夫！決まった
使い方なんてないから

お兄さんの好きな
ようにして

……じゃあ
試してみるか

安心して、そんなに
強くしないから

きゃんっ！







「この表情…」

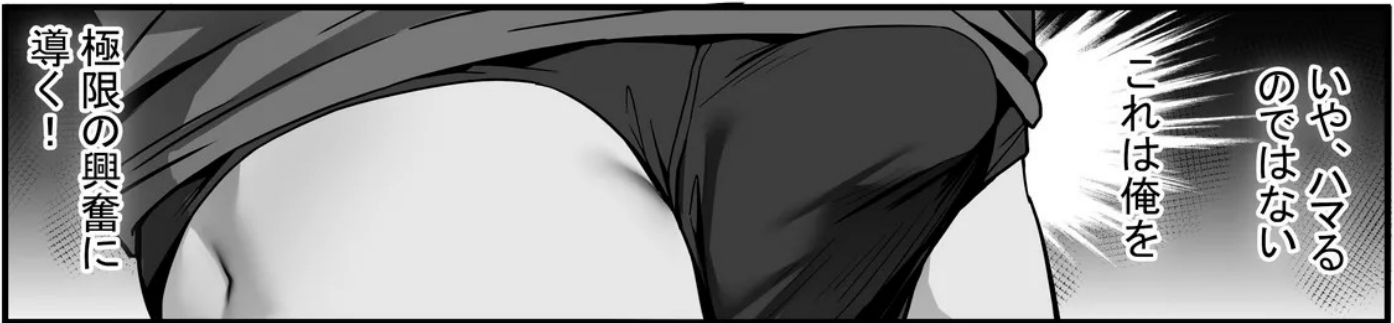
「この我慢
してる顔に…」



だんだんと
惹かれて…



ハマっていく…



いや、ハマる
のではない

これは俺を

極限の興奮に
導く！



なによ！



こんな小さな傷跡で
大きさに騒いで

やっぱりお兄さんの
おチンチンの方が男らしい

男なら

豪快に手を出しなよ

な、何だって!?

なぜか分からないけれど
この言葉が俺の
耳に強く刺さった

考えてみると

この後は



制御不能に
なるだろう…

あっ…痛い!

じゅじゅ…!

今「」から

俺の力もますます
強くなっていく

高速に鞭を振り回す

うっ!

彼女のうめき声も
どんどん大きくな
っていき

痛いっ!





うう……
お兄さんもう許して…

そうだ



絶対にまちがいない



痛くて我慢できないよ…



まさにこれが
正統派の俺に起きた

うう…

うう…

このゲスな私を
許して!

私が悪かった
お願い!

もう、私二度と
あんなこと言わない

本当の出来事である

彼女の全身にできた
傷を見た時

俺は彼女の下の方も
興奮でビショビショに
なっていることに気付いた！

なんだ、俺も加虐が
好きだったのか！？



.....

んんん

抵抗するんじゃない！

おい！

手を
どかせ！



.....!



手で抵抗をする
べきじゃなかった...



あつ、「ごめん」
つい、なんか
浮かれちゃって...

ちよつと、やりすぎ
だったよな？

.....



違うよ

お兄さん
心配しないで

謝らなきゃいけない
のは私の方...!



.....!

今度は抵抗なんて
しないから

罰として

ゴムをつけないで
生挿入してもいいよ

分かった…

まったく
従順な子だな！

完全に俺に
服従している！



興奮が頂点に達した!

私今日はもう疲れた!

ダメ!

ダメだ、じゃないとパンツに出してしまう

元元??!

アッ

アッ



キッ

キッ

キッ

キッ

あっ、嫌あー!

犯してやるー!

ゴムつけなくていいんだろ

うん 大丈夫

生挿入楽しみで
仕方ないわ！

ゴムなし

の
アキキ

の
アキキ

いやああー！

ーリリやすーアキキー





S M 後、感度が
さらに増している！



生挿入
最高！

んあッ

んあッ
んあッ

すごく硬い！

んあッ

んあッ

んあッ
んあッ



んあッ



今度はもっと
乱暴に犯してやる！

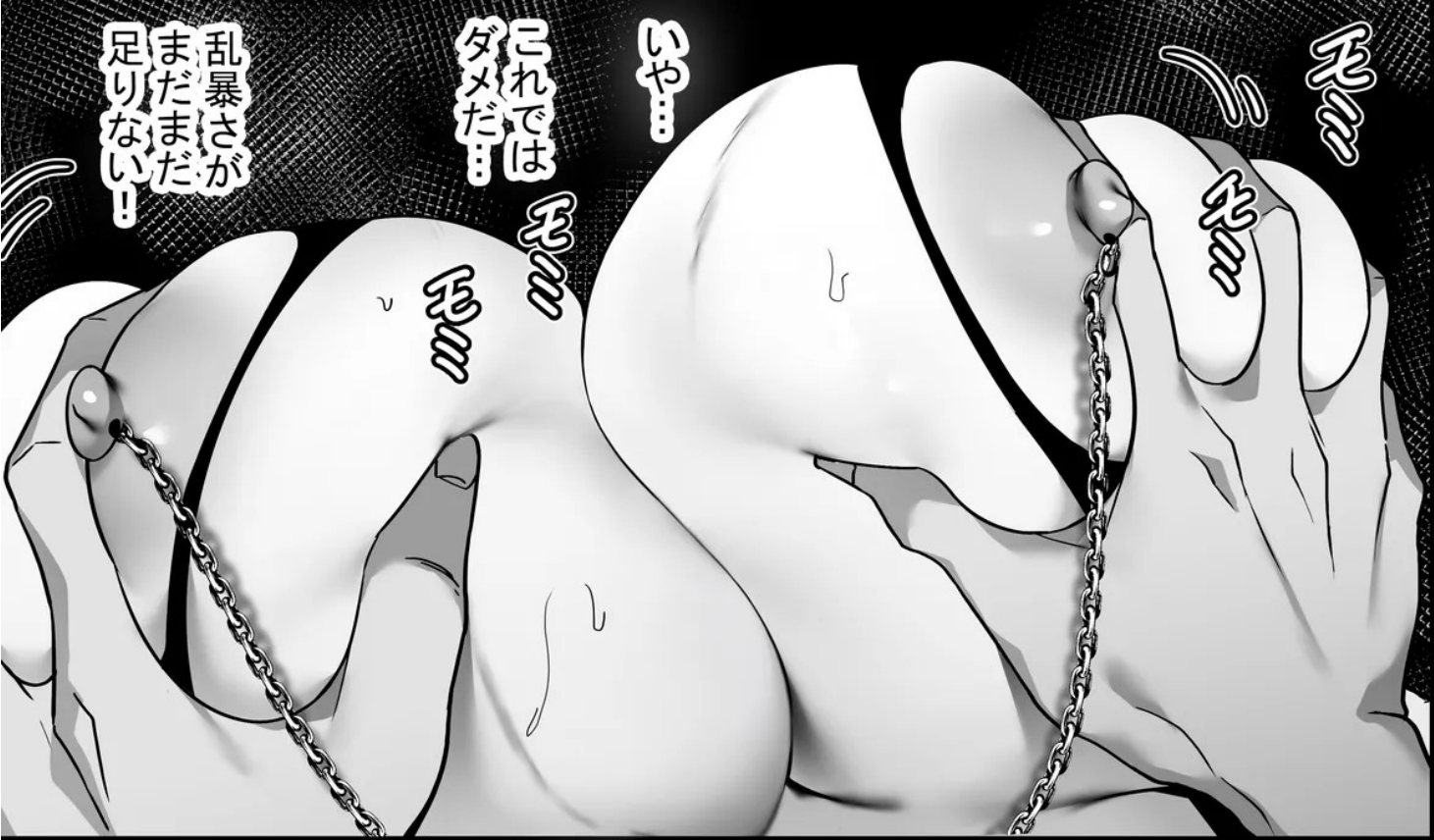
爽快だあ！

んあッ
んあッ

んあッ

んあッ

んあッ



乱暴さが
まだまだ
足りない！

これでは
ダメだ！

いや！

もも

もも

もも

もも



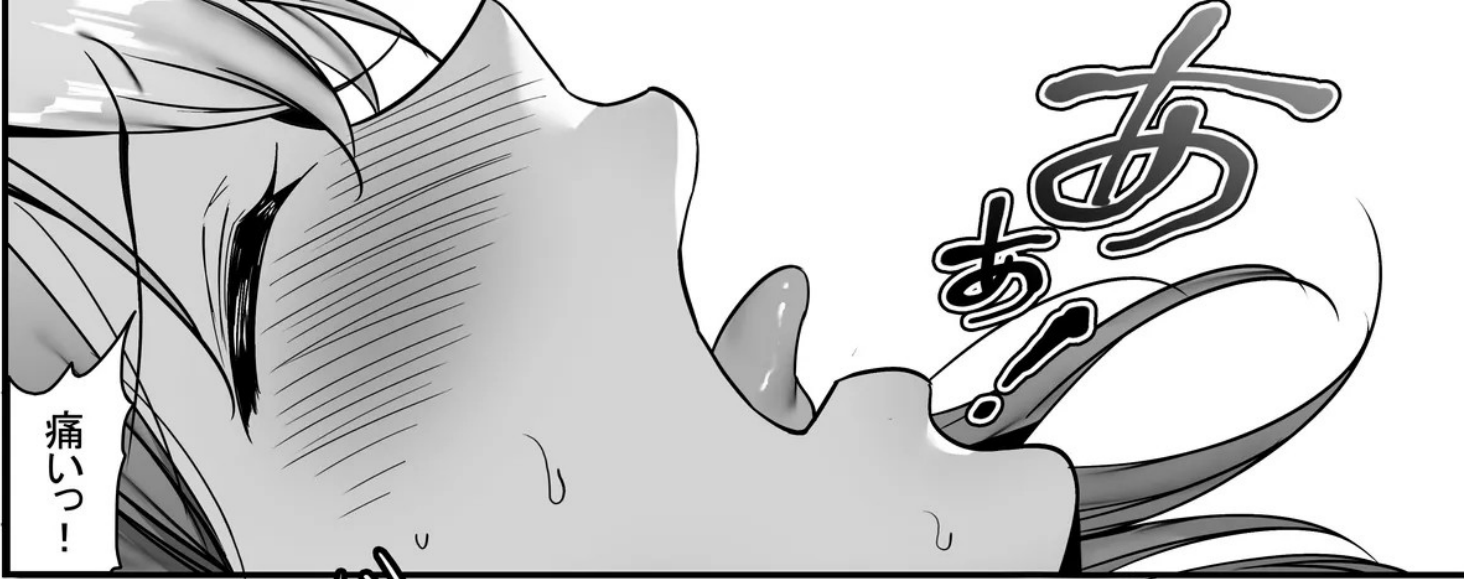
どうせ
やるなら



わ
ん
ん
ん



刺激がもっと
あった方がいいだろう！



痛いっ！

あ
あ！



っ、強すぎ
たかな？



気持ちいよ……！！



痛い…
痛い…

す、すごく



なっ、
なんだって？

もう少し…
カ入れて
くれない？

なんと
！？



ああ、
痛い！

がっ



そうだった
のか！

だったら
もっと！



まるで俺は

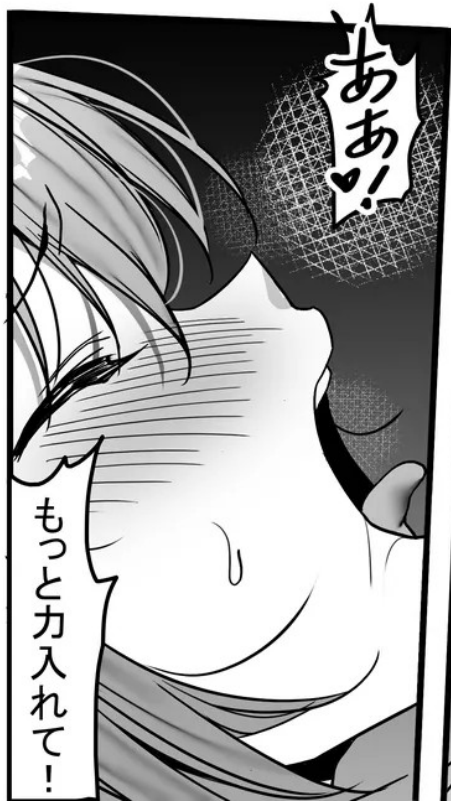
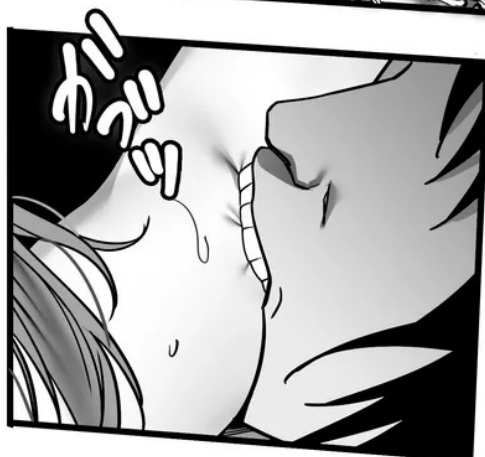


ああああー

ヤバイ
最高！



野獣のようだ！



ああ！

もっと力入れて！



狂ったように
セックスする野獣！

あぁっ！
痛い、気持ちいい！

お兄さんの
チンチンとお口
どっちも
最高ー！

あぁ

彼女は痛みから
快感を得て

俺は暴力から
快感を得ている

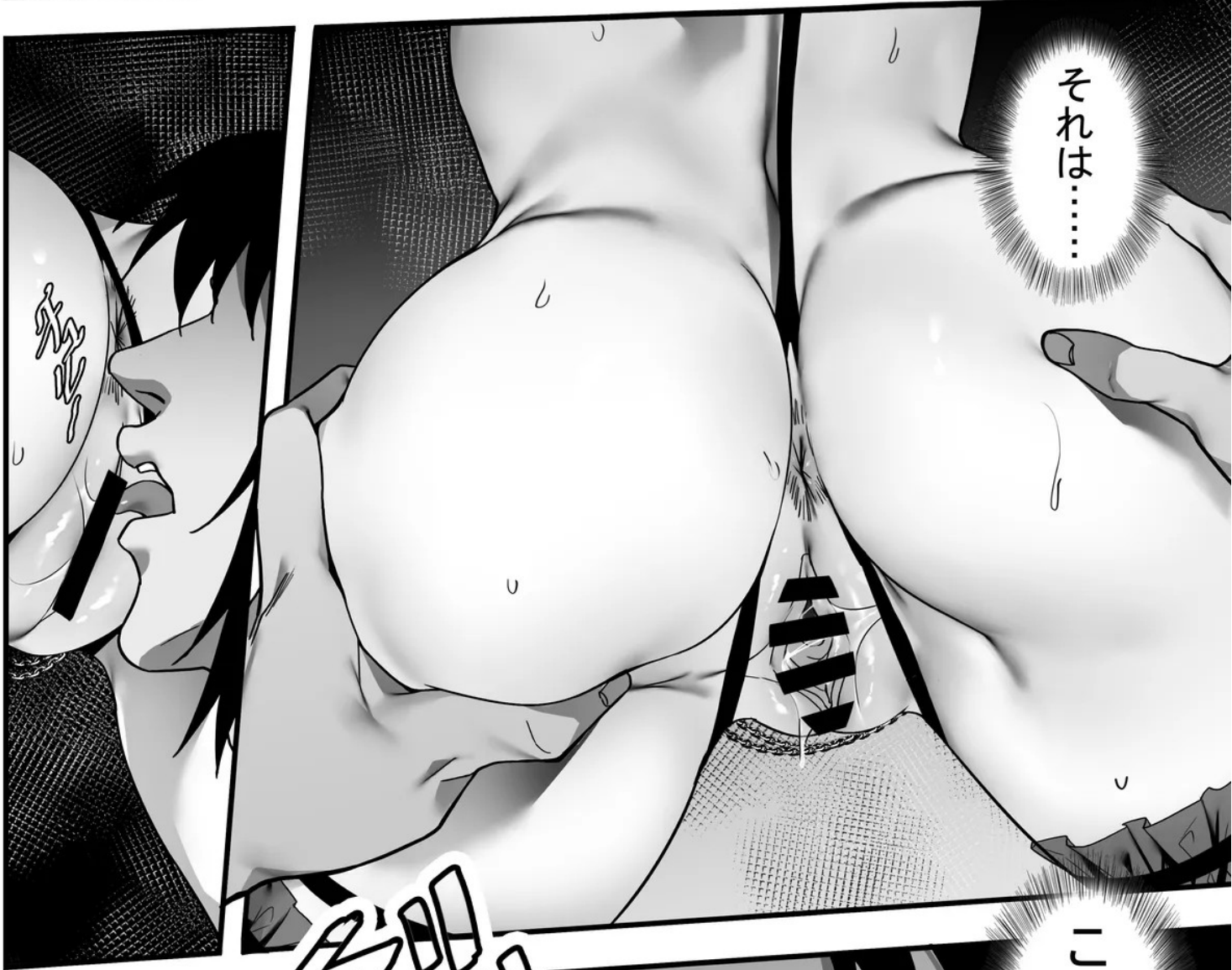
もっと力入れて！
あぁっ

もっと早く
知れば良かった…

こんなにも…

すばらしい
とは…







やあああ！

痛い痛い、ヤバい！

ああああー



これで彼女も
もっと爽快だろ？

そう、それ
それ！

私をメチャクチャにして
また大きくなった！

やはり…



整ったぞ！

ラスト

ニル

ド
ン

70
47

スパートだー!



ああ!

ああ♡

お、大きい
おチンチン
また大きくなった!

あああー
さらに大きく

さらに硬い
肉棒……!

お兄さん、早く
その肉棒で私を
犯して!

ああー
気持ちいい!

ああー
ああー

もちろんさ!

すぐに彼女は
許しを請うだろう!





も、もう
耐えられない！

うっ！
俺も快感の
絶頂に…

あ、
あともう一つ
お願いが…

？

なんだ？



ああ…！
気持ちいい！
最高！

ああっ！
お兄さんの肉棒
世界一！

♡
カいつぱい♡
踏みにじって
あぁー



んんっ?

うん…
あのね…
頼みがあつて



手………?

ちよつと私に
手をかしてくれる?



いったい
なんだろう?



簡単だよ



これで
何をするの?

さあ、私の首を閉めてちようだい

私の首を閉めて興奮してもらえる？

あつ…何だって!?

心配しないで念のために私お兄さんの手握るから

その時は手を放してくれればいよいよ

私でさえ怖くないんだから

お兄さん男だしへっちゃらでしょ？

チエツ

またこうやって俺を刺激してくる

分かったよ



力入れて閉めるのは心配だが



この感じ…

また湧き出てきた！



うう…



また暴力から快感を得ようと

そして興奮する



うううー

うううー



あーあ

あの強烈な
満足感

この女への支配感
暴力から得た刺激感

うわ...

そして彼女の歪んで
いくその顔

うわ...

グッ

あーあ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

これらは全て

自らの経験の
中でのみ

確信することが
できる

これは現実のこのなのだ

ううう！

うううう？！

後になって俺は
かなり危険なことを
していたのだと
気付いた。今後は
気軽にやるもの
ではないな...

気持ちいい!

最高!

これは絶対に...

人生で一番最高のセックス!

あっ! おチンチンが

膣を絶え間なく貫通していく

あっ! イクっ!

我慢!

もう少し我慢だ...

はあー

はあー

最後 一気に...

ラララララララ

ラララララララ

グッ

グッ

グッ



うわあー

10

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

だが、この子を目の前にし冷静になれるわけがなかった

うう…いつぱい出たぜ…

大丈夫？

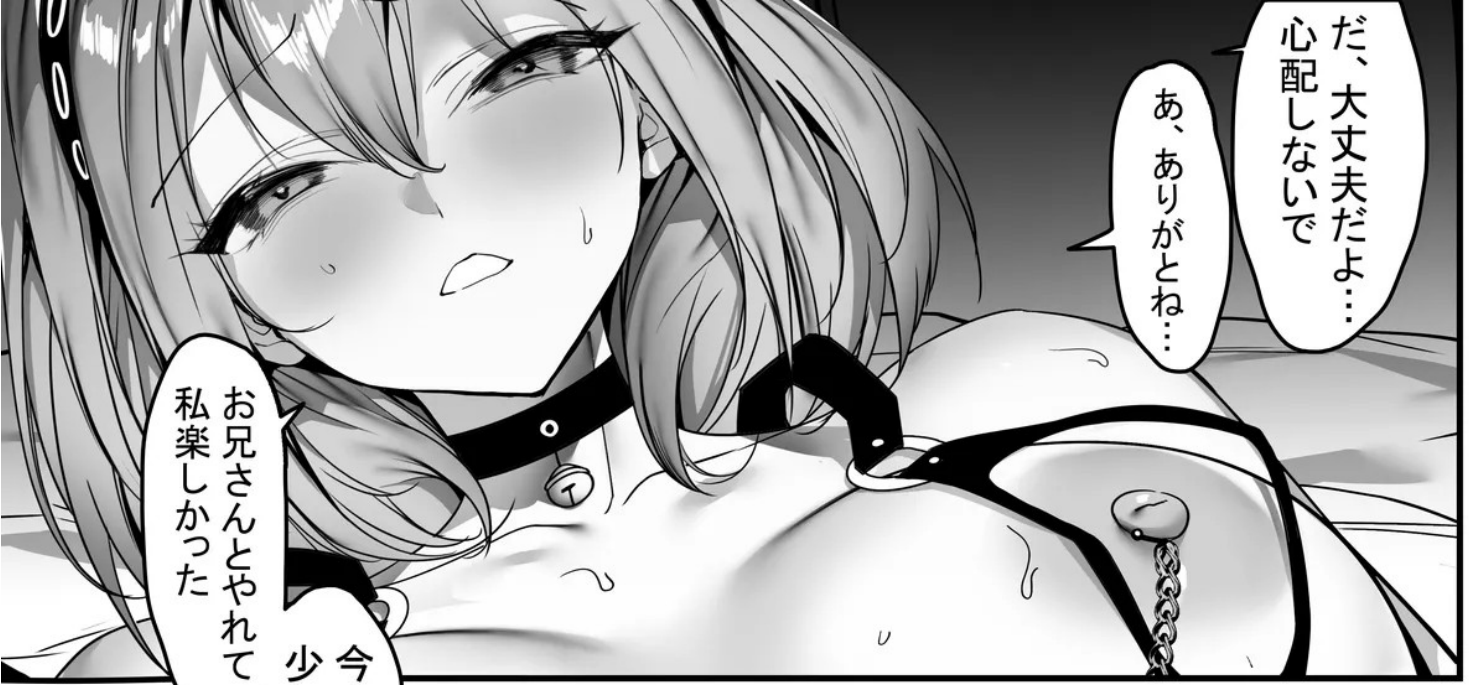
俺の力加減どうだった？

終わってみるとなんかドキドキする

しかし、彼女は どうして俺にここまで心を開いてくれたんだ？

11

11



だ、大丈夫だよ…
心配しないで

あ、ありがとね…

お兄さんとやれて
私楽しかった

今ちよつと
少しだけ



俺はその様子を
自分の作品を

鑑賞しているかの
ように眺めた



そして自ら
この部屋を出た

が
チヤ



休憩させて…

彼女はすっかり
疲れ果てている
ようだった

流れ出る俺の精液
も拭くことはなかった

だから、俺は
最後まであの子の

名前すら
知らなかった

もう遅いし
勇もう寝てる
だろ

ん

ええっ!?

まだ起きて
たのかよ?

ははは!
おかえり

お前
おめでとう!

出会うべくして
出会ったSMプレイ
だったな

正統派のお前が腰を
抜かさなにか心配だったぜ

勇は俺に
あの子と何があった
のか聞いてきた

SMプレイ?

もしかして
勇のこと
知ってたのか?

もちろん
これは典型的な
主人と奴隷の
SMプレイだよ

簡単に言うと
奴隷は主人の言うこと
を聞いてその任務を
こなす

そして
主人は色ん
なやり方で
奴隷を監視する

どうやらお前は
そのプレイに
はまったようだな

そういえば
彼女ずっと
イヤホンつけてた

まさか
それは

主人とずっと
つながっていた
ってこと?

何?じゃあ俺はずっと
プライバシーを
侵害されてたってことか?

遊びだから
そんなに真剣に
考えるなって
楽しかっただろ?

でも...お前
なんでそんなと
知ってるんだよ

はははは、
なんでだろうな?

お前もしかして
とくにこのプレイ
経験してる!?

はは!

早く詳細
話せよ!

話はどうであれ
俺はこの経験を
忘れることはない

702号室を通るたびに
あの女の子の面影が
頭に浮かぶ

702

しかしながら、彼女は
二度と現れる
ことはなかった……

END

あとがき

「ノンフィクション」をテーマとした作品を
創作する前には、

現実世界に、フィクションを何百倍も
上回るこんなにも多くのすばらしい事例が
あったとは思ってもありませんでした。

そして、それらを一刻も早く画かず
にはいられなかったです。

皆さんぜひ乞う
ご期待下さい！

また、もし、
皆さんにも面白い
sexエピソード
がございましたら、

ぜひ、コメントで
教えて下さい。

それらをしっかりと
画き上げたいと
思います^^

